

# 商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年6月調査結果-

## 調査概要

- 調査期間 2025年6月9日～6月30日
- 調査対象 200社
- 回答企業 128社
- 回収率 64.0%

### ※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

## 旭川市概況

※全産業の6月の状況を見ると業況DIは、前月より5.6ポイント改善の▲11.7となった。

2017年9月以来94ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲14.0、当月と比べ2.3ポイントの悪化が見込まれる。

## 旭川市全産業DI値（前年同月比）の推移

	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2025年7月～ 2025年9月
業況	▲22.4	▲21.2	▲15.5	▲14.2	▲17.3	▲11.7	▲14.0
売上	▲9.7	▲7.6	▲3.9	3.7	0.8	7.1	0.0
採算	▲26.8	▲27.3	▲17.8	▲15.7	▲18.8	▲11.0	▲14.9
仕入単価	▲64.9	▲62.1	▲64.3	▲70.2	▲56.4	▲56.3	▲52.3
販売単価	35.9	26.5	37.2	29.1	24.1	30.4	25.8
従業員	34.3	32.6	28.7	36.6	33.8	32.1	31.2
資金繰り	▲11.9	▲13.6	▲8.6	▲8.2	▲11.3	▲9.4	▲9.4

## 旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	先行き見通し 2025年7月～ 2025年9月
建設	▲35.5	▲34.4	▲30.0	▲29.0	▲21.2	▲10.3	3.5
製造	▲27.3	▲32.4	▲9.4	▲16.7	▲24.2	▲10.0	▲16.7
卸売	▲10.0	▲7.4	▲14.3	0.0	▲7.4	▲7.4	▲3.7
小売	▲27.8	▲38.9	▲25.0	▲26.3	▲36.8	▲38.9	▲44.4
サービス	▲9.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	▲20.8

## 今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見積段階で中々受注にならない。他社との見積競走で負けてしまう。現段階で他社からの下請けで売りに繋げている。全体的に材料・労務費・燃料と全てにおいてコスト増となっている。（総合工事）</li> <li>・工事資機材価格及び下請施工費の高騰により、利益を圧迫している状況。（総合工事）</li> <li>・物価上昇に対し実質賃金は下がり続け個人消費も低迷している。政府は家計支援や賃上げ促進策を打ち出しているが実感は乏しく、対策の遅さや的外れさに不安を覚えることも少なくない。それでも、経済が持ち直し業績にも好影響が及ぶよう政策的的確な実行に強く期待したい。（設備・その他）</li> <li>・足元の業績は、前年同期と比較すると伸びているが、前年度が低調であったことを引き今後施工状況を勘案すると通期見通しは厳しい。新築住宅の見込客は増加しているが、他社との競合もあり成約如何により業績を大きく左右することになる。（建築業）</li> <li>・新築・リノベーションは法改正の影響もあり必然的に高額になるため工夫が必要。（建築業）</li> </ul>
製造業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作物の生育が遅れ気味だったのが、真夏のような陽気が続いているため順調になりつつある。今後の暑さと湿度により収穫量に影響がでなければいいが。今月の商談会で主力商品以外での問い合わせもあるので、新規取引につながるよう努力したい。（食料品）</li> <li>・3～4月の売上が一気に伸び好転の兆しかと思われたが、その後は前年の売上高を若干上回る程度で推移しているのが現状。（家具・木材）</li> <li>・樹種によって集荷にバラつきがある。機械の経年劣化による故障・修繕がコスト増や生産に影響する。（家具・木材）</li> <li>・原材料及びエネルギー問題等で不透明。（金属窯業他）</li> </ul>
卸売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度と同等が若干良い業況といえる。（機械鋼材）</li> <li>・当月の業況は前年同期に比べほぼ横ばいで推移。例年この時期は商品の動きが鈍く、売上げはしばらく足踏み状態が続くものとみられる。今は急な拳積の向上は期待しにくいのが年後半に向けて根のはたした推進を行っていく時期として考えている。（その他）</li> <li>・現業以外の新事業の開拓が必要である。異常天候に左右される生鮮品の中でも劣化が早い商品のリスクをどうヘッジできるかが今後の課題。（その他）</li> </ul>
小売業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月に入り気温が上昇し夏物商品(カットソー及びTシャツ)が少しずつ動いてきたが、来店客数が非常に少ないため、売上を確保するのが厳しい。SNSで顧客へ新商品入荷情報を告知しており、購買意欲を高めることが重要。また店舗への来店を促す狙いもある。（衣服身回品）</li> <li>・イベント「あさひかわ菓子博 2025」開催により、店舗への来店者数が大幅に増加。特に店内飲食を中心に販売数が大きく伸びた。この反響は、予想を上回るものであり売上増加に寄与した一方で、主原料であるコーヒー豆の在庫確保が追いつかず一部商品の生産調整を余儀なくされている。（食料品）</li> <li>・新型車の発売の影響もあり収益は前年比で増加すると予想。しかし人件費やエネルギー価格の高騰により増加した営業費分をカバーするまでには至らず、今後も採算は悪化すると予想している。（自動車）</li> <li>・仕入単価上昇による売上減少が続く。（自動車）</li> </ul>
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕入れコスト上昇が全てになる。また重油・電気代のコスト高止まりがここ数年続いているため、収益が出にくい体質になっている。（理美容・クリーニング）</li> <li>・売上げは好転しているが、人件費増などにより最終利益は思ったほど伸びず。（ホテル・旅館）</li> <li>・7月5日予言問題で中華系のインバウンドが弱い。（ホテル・旅館）</li> <li>・公共工事は前年度並みの水準を維持する見通したが、民間工事については建設資材価格の高騰やトランプ関税の影響により、大幅な減収が予想される。（その他）</li> <li>・人員不足のなか多客期をどう乗り切るか課題は多い。（運送）</li> </ul>

## 旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	<p>売上 DI3.0 ポイント改善、採算 DI6.5 ポイント改善、仕入単価 DI8.4 ポイント改善、販売単価 DI3.6 ポイント悪化、資金 DI2.2 ポイント改善、従業員 DI2.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 15 ポイント、建築業 25 ポイント改善となった。前月と同様の状況傾向にあるため、改善に苦慮との声も寄せられている。</p>
製造業	<p>売上 DI23.6 ポイント改善、採算 DI17.4 ポイント改善、仕入単価 DI1.6 ポイント悪化、販売単価 DI4.5 ポイント悪化、資金 DI7.1 ポイント改善、従業員 DI0.5 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品、家具・木材横ばい、印刷・出版 40 ポイント、金属窯業他 22 ポイント改善となった。販売単価改定により利益は前年を上回ったとの声も寄せられている。</p>
卸売業	<p>売上 DI 横ばい、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI3.7 ポイント悪化、販売単価 DI 横ばい、資金 DI3.7 ポイント改善、従業員 DI3.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、機械鋼材 29 ポイント改善、繊維・衣服等横ばい、食料品 23 ポイント、その他 13 ポイント悪化となった。人手不足との声も寄せられている。</p>
小売業	<p>売上 DI12.0 ポイント悪化、採算 DI2.3 ポイント悪化、仕入単価 DI13.5 ポイント悪化、販売単価 DI22.8 ポイント改善、資金 DI6.7 ポイント悪化、従業員 DI3.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 2.1 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、その他、自動車横ばい、衣料品 50 ポイント悪化となった。工場機械の老朽化・人手不足との声も寄せられている。</p>
サービス業	<p>売上 DI9.7 ポイント改善、採算 DI12.5 ポイント改善、仕入単価 DI5.7 ポイント改善、販売単価 DI25.5 ポイント改善、資金 DI0.2 ポイント悪化、従業員 DI5.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、飲食 20 ポイント、整備業 25 ポイント改善、理美容・クリーニング、ホテル・旅館横ばい、その他 20 ポイント、運送 25 ポイント悪化となった。老朽化による設備投資と、人手不足との声も寄せられている。</p>